

QOL

No.22

QOL サポーター 新潟

Quality Of Life



3月16日(火)、新潟市朱鷺メッセ'ウェブマーケット'において、第6回卒業式が行われ、袴やスーツに身を包んだ学部生538名、大学院生20名の計558名が新たな社会へと巣立ちました。

INDEX

- 学長・副学長メッセージ
- 学習支援及びメンタルヘルスについて
 - ・ 学習支援体制について
 - ・ 大学生のこころの健康
- QOL向上を目指す専門職間連携
教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践
- 海外研修特集
 - ・ アメリカ カリフォルニア研修
 - ・ 韓国研修
 - ・ アメリカ ピッツバーグ研修
 - ・ フィリピン研修
- 新入生へのアドバイス
- 学友会紹介
- CAMPUS NEWS
- 受験生のみなさんへ



新潟医療福祉大学

2010年4月6日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集



新潟医療福祉大学 学長 山本正治

■専門 公衆衛生学、予防医学 ■学位 博士(医学)、M.P.H. (テキサス大学) ■所属等 ポストン大学医学部リサーチフェロー、新潟大学医学部教授、新潟大学大学院医歯学総合研究科教授、新潟大学医学部長、新潟大学大学院医歯学総合研究科長、新潟大学医歯学系長、新潟県環境審議会会長、新潟県医療審議会会長、日本がん疫学研究会総会会長、日露医学医療交流財団国際シンポジウム機構長、日本衛生学会総会会長等を歴任

新潟医療福祉大学は創立10年目を迎えました。建学の精神「優れたQOLサポーターの育成」を掲げ、順調に発展してきました。2007年のニューヨーク株式大暴落(サブプライム・ショック)から世界金融危機が発生し、我が国も“100年に一度の不況”に見舞われています。また昨年には政権交代がありました。先の見えない激動する社会の中で、この建学の精神はさらに重要性を増すと私は確信しています。

10年前に「優れたQOLサポーターの育成」を掲げた理由ですが、日本の平均寿命はいまや世界一を達成したことにあります。日本の人々は世界で一番長生きできるわけです。しかしこれからのテーマはただ単に長生きするだけでなく、いかにより良く生きるかが問題となっています。お年寄りの方は病気がちですが、病気になっていかに病気とうまく付き合っていくかが大事になります。「より良く生きること」を英語ではクオリティーオブライフ、その頭文字をとってQOLと言っています。日本語では「生活の質」と訳されていますが、より良い生き方、満足感が得られる生き方と言った方が分かりやすいと思います。お子様が本学に入学し、卒業された暁には、お年寄りだけでなく全ての国民の方々のQOLを、保健・医療・福祉の面で専門的に支えるサポーターになってもらいたいと思います。大学はそのために惜しみなく支援をいたします。

本学は、保健医療福祉領域の国家資格や民間で行われている資格を取得していただくことを基本方針としています。資格を取った上に、さらに大学で学んだ証としての「学士力」(論理的思考力、コミュニケーションスキル、問題解決力など)を身に付けることができるのが特徴です。また大学では専門教育以外に教養科目も習いますので、将来高度専門職業人として働きながら、芸術、文化、歴史、スポーツなど多方面のことに興味を持ち、自己のQOLを高めることも可能です。なんと素晴らしいことでしょうか。

ところで国の教育方針は目まぐるしく変わってきています。戦後ずっと続いた教育は残念ながら「詰め込み教育」が特徴でし

「生き抜く力」 —特に保護者の皆さまへのメッセージ—

た。これが批判され、平成元年文部省告示の学習指導要領では「ゆとり教育」、平成10年には「ゆとり教育と生きる力」、平成20年には「生きる力」と変化してきています(注:指導要領は数年遅れて全面実施されている)。皆様のお子様はゆとり教育で育った世代だと思います。ゆとりはそれなりに意味がありました。

しかし“分数のできない〇〇大学の学生”が話題になり、平成15年に行われた15歳生徒を対象にした学習到達度調査(PISA)では、世界先進国の中で日本の学力低下が明らかになるという止めの一撃を受けました(PISAショック)。その後文部科学省(文科省)は方針転換し、学力向上策を具体化していくことになりました。

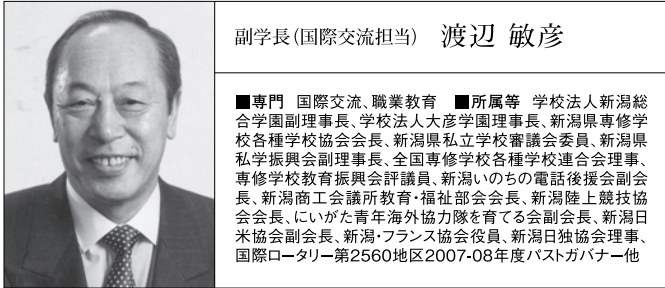
生きる力とは、知・徳・体のバランスのとれた力と定義しています。さらに変化の激しいこれからの社会を生きるために、基礎的な知識や技能を修得することで、さまざまな問題に積極的に対応し解決する力(問題解決力)、豊かな人間性(人間力)、健康・体力(体力)が必要であると言っています。文科省は建前でしか書けないと思いますが、私は次の本音を示唆していると思えてなりません。すなわち日本古来の生活の知恵“読み書きソロバン(今はコンピュータ)”が重要であること。また枕言葉の「変化の激しいこれからの社会を生きるため」から推測して、“手に職を付けること”の重要性です。

ある企業が実施したサラリーマン川柳で、今の時代を詠んだものが目に留まりました。

「先を読め!」言った先輩 リストラに

変化の激しいこれからの社会を生きるために、私は資格取得に学士力を加え、「生き抜く力」と定義し、本学における教育上の行動目標にしたいと思います。資格取得と学士力を身につければ、川柳で起こったようなことを避けるため“鬼に金棒”です。

これからさらに深刻化する少子高齢化社会をお子様が生き抜くために、本学のこの考え方に賛意を表していただけると確信しています。



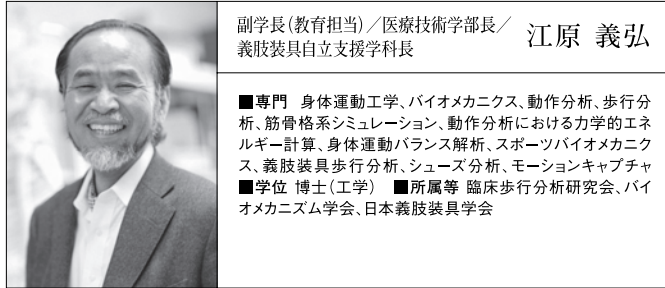
副学長(国際交流担当) 渡辺 敏彦

■専門 国際交流、職業教育 ■所属等 学校法人新潟総合学園副理事長、学校法人大彦学園理事長、新潟県専修学校各種学校協会会長、新潟県私立学校審議会委員、新潟県私学振興会副理事長、全国専修学校各種学校連合会理事、専修学校教育振興会評議員、新潟いのちの電話後援会副会長、新潟商工会議所教育・福祉部会長、新潟陸上競技協会会長、いいがた青年海外協力隊を育てる会副会長、新潟日米協会副会長、新潟・フランス協会役員、新潟日独協会理事、国際ロータリー第2560地区2007-08年度バスターガバナー他

国際交流の重要性

本学の設立の基本理念は、1.「優れたQOLサポーターの育成」2.「地域社会のニーズに応えること」3.「国際交流と国際貢献」の3つであります。1と2・3は全く別項目のようですが、実は大変深く関わっています。即ち、優れたQOLサポーターは、まさに「地域社会」の中で、保健・医療・福祉の分野で活躍する訳ですので、地域社会とそのニーズを知る必要があります。3の国際交流・貢献ですが、QOLサポーターの活躍する専門分野は日本だけで独立している訳ではなく、「世界の中の日本」であると思います。即ち、QOLサポーターとしては、広い視野と最新の情報を得る必要がある訳で、国際交流は、そのための有効な手段であると思います。

さらに、QOLサポーターの「ハード」の部分は最新の情報・知識と優れた技術だと思えますが、その「ソフト」の部分は、人間性とコミュニケーション力になると思います。「ハード」は「ソフト」がないと機能しない訳ですので、人間性やコミュニケーション力を養い、それを磨くのは「国際交流」がうってつけだと思います。その機会を提供していきますので、積極的にトライして下さい。

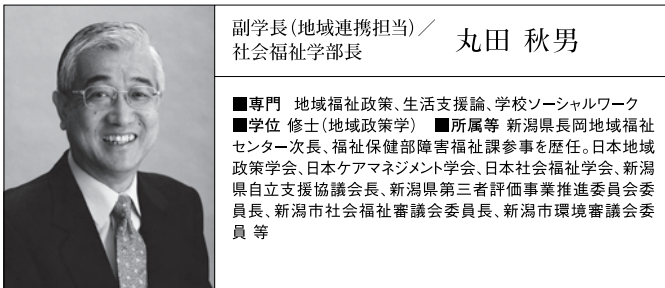


副学長(教育担当)／医療技術学部長／義肢装具自立支援学部長 江原 義弘

■専門 身体運動工学、バイオメカニクス、動作分析、歩行分析、筋骨格系シミュレーション、動作分析における力学的エネルギー計算、身体運動バランス解析、スポーツバイオメカニクス、義肢装具歩行分析、シューズ分析、モーションキャプチャ ■学位 博士(工学) ■所属等 臨床歩行分析研究会、バイオメカニクス学会、日本義肢装具学会

学生の授業満足度全国一を目指します！

大学が創立10周年を迎え、進むべき進路が鮮明になってきました。医療・福祉の分野で他の職種と連携し、自分の果たすべき任務をしっかり遂行できるQOLサポーターを育て社会に送り出すことです。そのための環境をより強固にしていきます。わかりやすい表現で言うと、学生が来たくて来たくてたまらない大学です。特に授業の満足度で全国一と言われるような大学にしていきます。授業満足度が向上すれば学生はもっともっと自主的に学習するでしょう。授業の満足度が向上すれば国家試験の合格率や就職率も上昇するでしょう。国家試験の合格率では既に全国一あるいは全国トップクラスを実現しています。これらがさらに堅実なものになるでしょう。授業満足度向上には各教員の努力・工夫がもちろん必要です。加えて各科目のもつ意味や位置づけを、各職種に必要とされる能力養成の中で再確認が必要と思っています。授業の中で学生のパワーを活用するような視点も必要でしょう。大学をもっともっと楽しいものにするために学年を越えた学生どうしの助け合いや、学部・学科を越えた学生どうしの連携をサポートするような環境もつくっていききたいです。大学院の院生が学部の学生の指導を当たり前のようにする環境もできつつあります。



副学長(地域連携担当)／社会福祉学部長 丸田 秋男

■専門 地域福祉政策、生活支援論、学校ソーシャルワーク ■学位 修士(地域政策学) ■所属等 新潟県長岡地域福祉センター次長、福祉保健部障害福祉課参事を歴任。日本地域政策学会、日本ケアマネジメント学会、日本社会福祉学会、新潟県自立支援協議会会長、新潟県第三者評価事業推進委員会委員長、新潟市社会福祉審議会委員長、新潟市環境審議会委員等

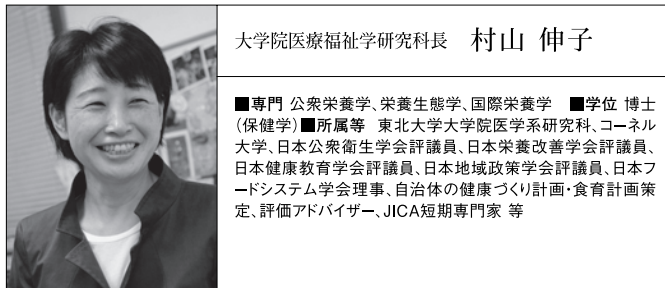
副学長就任にあたって

創立10周年を迎える大きな節目に、地域連携を担当する副学長(社会福祉学部長兼務)を拝命いたしました。新入生並びに保護者の方々の想いや願いを実現するために、精一杯、職務に励む所存ですのでよろしくお願いいたします。

本学は、平成22年4月1日現在で教職員数は約220名、学生数は約2,700名(大学院を除く)に上りますが、学生数は県内の24の大学等に在籍する学生数の1割強を占めています。

地域連携担当の副学長としては、県民等から安心され信頼される「魅力ある大学づくり」を目標として、本学の有する「知の財産」や「人の財産」を積極的に活用し、地域や県民が抱える様々な地域課題や生活課題の解決に向けて果敢にチャレンジしたいと考えております。

そのために、本学の「知の財産」や「人の財産」と地域社会を結び付ける多様な「社会的な懸け橋」(ソーシャル・レインボーブリッジ)を構築し、将来のキャリア形成に向けた具体的支援を展開したいと思えます。新入生の皆さん、21世紀の福祉社会を担う専門職を目指して、共に「質の高い学びと豊かな体験」を積み重ねましょう。



大学院医療福祉学研究科長 村山 伸子

■専門 公衆栄養学、栄養生態学、国際栄養学 ■学位 博士(保健学) ■所属等 東北大学大学院医学系研究科、コーネル大学、日本公衆衛生学会評議員、日本栄養改善学会評議員、日本健康教育学会評議員、日本地域政策学会評議員、日本フードシステム学会理事、自治体の健康づくり計画・食育計画策定、評価アドバイザー、JICA短期専門家等

大学の社会的使命としての“研究”

新潟医療福祉大学大学院は平成17年度にスタートし、平成21年度には5年間の修士課程・博士後期課程を完成しました。大学院では、個人や集団のQOL向上に寄与する高度な「保健医療福祉のプロフェッショナル」の育成をおこないます。プロフェッショナルとしては、高度専門職と、大学や研究機関の研究・教育職があります。保健医療福祉のニーズやしくみ、環境などが急激に変化し多様化している現代において、個人や集団のQOL向上に寄与するためには、高度な専門知識に加えて、状況を総合的・論理的に考え、本質を見抜いて的確に判断することが求められています。的確な判断をするためには、多くの質の高い研究の蓄積が必要です。

しかし、生活習慣病予防から看護ケア、リハビリテーション、介護や福祉などの領域では、まだ質が高い研究が少ないのが現状です。そこで、本学大学院の使命は、①質の高い研究を生み出す力や使う力を持ったプロフェッショナルを育成しつつ、②世界におけるこの分野の研究蓄積に寄与することと考えます。高度専門職は、保健医療福祉の現場で研究をしつつ、既存の研究成果を現場に活用するプロです。研究・教育職は、大学等で研究しつつ、大学等の教育に活用するプロです。これらの使命が十分に果たされてこそ、社会において大学院をもつ大学の存在意義があると考えます。そして、保健医療福祉の総合的な大学院として、全国でそしてアジアでもトップクラスに位置づけられるよう具体的な目標をたてて取り組みたいと思います。

学習支援及びメンタルヘルスについて

本学では学生支援の一環で、教職員による学習支援体制を確立し、きめこまやかな学生サポートに力を入れております。今回はその取り組みについて、本学教員によるメンタルヘルスについての記事をご紹介します。

学習支援体制について

看護学科 教授 林 千治

本学における学習支援は学習支援委員会が中心となって行っています。そこで、学習支援委員会の概要について述べます。

【目的】全ての学生が快適で問題なく学習できるように学習環境を向上することを目的とし、特に心身に障害のある学生及び学業不振な学生に対する支援を図っています。

【組織】学習支援委員会は、各学科代表者・健康管理センター代表者・関連委員会代表者(教務委員会、学生委員会、教育開発委員会)・学校医・医務室(看護師)・身体障害に関する専門家である教員・臨床心理士・精神科医・発達障害または精神障害に関する専門家である教員および事務局代表者などで構成されています。さらに委員会は以下の3つの専門部会に分かれて活動しています。

- (1) 疾病および身体障害者への学習支援(第1部会)
- (2) 精神障害・発達障害またはその疑いのある学生への学習支援(第2部会)
- (3) 学業不振の学生に対する学習支援(第3部会)

〈学習支援の流れ〉学習支援は次の2つの流れがあります。

(1) 学生からの支援要請(相談)の場合

学生→相談窓口(各学科・教務課・健康管理センター・就職センターなど)

*相談窓口をつくるのではなく相談を受けた部署が窓口となる。

各学科(学科長・アドバイザー・学習支援委員・教務委員など)で協議*〈アドバイザー〉少人数の学生に対し1人の教員が責任者となって学生を見守るシステムで、各学科において全学年の学生全員に対して配置されている。

協議の結果、その問題が

- ① 身体・精神など疾病・障害であり全学的な対応が必要なら

↓
健康管理センターへ連絡
健康管理センターで内容を審査し
授業欠席・試験欠席など→教務課へ
学習支援が必要→学習支援委員会・各学科で対応(第1部会・第2部会)

- ② 学科内で対応すべき問題は基本的に学科内で対応する。ただし学科内対応が困難な場合が学習支援委員会へ連絡し対応策を練る。

(2) 周囲から学生の見守り

学業不振(低成績)・生活態度不良者など
学科で学生にアプローチする。
*まず、アドバイザーが対応。さらに学習支援委員(第3部会)が対応

↓
学科内で対応を検討する。

- ① 身体的・精神的問題→健康管理センターへ
学習支援が必要なら第1または第2部会へ
- ② 生活上の問題→学習支援委員会(第3部会)・学生委員会
- ③ 学習上の問題→学科内対応が主(学習支援委員会第3部会)
*特にメンタルヘルス面の問題は気づきにくいので、危険信号を見逃さないこと

〈付記〉

- (1) より効果的な学習支援のためには、学生が気楽に相談できる環境を作ることが重要となります。
- (2) 詳細は学習支援委員会で作成した学習支援ガイドラインを参照してください。

大学生のこころの健康

看護学科 准教授 金谷 光子

青年期は、「アイデンティティを確立する時期」といわれています。「私は何者?」、「自分は何になりたいか」という二つの難問に取り組むことが課題のようです。これらの課題に取り組むためには、自分の鏡となってくれる友人との付き合いや語らいがとても重要になってきます。

さて、友人との付き合いは、楽しくもあり、時にはわずらわしくもあります。ドイツの哲学者、ショーペンハウアーの寓話に、寒い冬、山の中で2匹のヤマアラシが暖め合うために身を寄せると、互いの棘でさしてしまし、離れると寒くなるということを繰り返しているうちに、ほどほどに暖めあう、丁度良い距離を見つけるというものがあります。これは人と人との間の心的距

離を現したもので、アメリカの精神分析医ベラックによって「ヤマアラシ・ジレンマ」と名づけられました。

人は、近づきすぎると緊張が増し、嫌がられたり、避けられたり、一方で遠ざかりすぎると疎外感を感じてしまうように、とてもデリケートな生き物です。これらの微妙さを感じ取り、居心地のいい親密さを探りながら友人関係を形成してゆくことは、皆さんの課題解決の糸口でもあり、こころの健康を保つ為の秘訣でもあります。もし、上記の二つの課題で行き詰ったときには、あなたが話してみたい教員の研究室をノックしてみましよう。

QOL向上を目指す専門職間連携 教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践

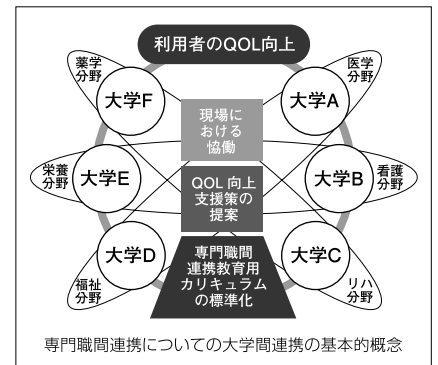
「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」とは、文部科学省が平成20年度から新規に開始した事業で、国公私立大学間の積極的な連携を推進し、教育研究水準のさらなる高度化、個性・特色の明確化、大学運営基盤の強化等を図ることを目的とした事業です。本学からは平成21年度に申請を行った結果、「QOL向上を目指す専門職間連携教育用モジュール中心型カリキュラムの共同開発と実践」(代表校:新潟医療福祉大学、連携校:埼玉県立大学・札幌医科大学・首都大学東京・日本社会事業大学)事業が採択されました(事業予定年度:H21~H23年)。今回はこの取り組みについて、ご紹介したいと思います。

| 趣旨・目的 |

複雑化、多様化した社会の諸問題に対処するため、QOL(Quality Of Life:クオリティ・オブ・ライフ=生活の質)の追及を目的とした専門職間協働(Interprofessional Work)は、保健・医療・福祉分野で最優先課題です。日本では以前より保健、医療、福祉3分野の連携の必要性が叫ばれてきたにも関わらず、現場において専門職協働がかならずしも実践されているとは言い難く、未だに介護疲れによる自殺や、児童虐待死などの事件があとを絶ちません。そこで近年、複雑な社会の諸問題に対処すべく、専門職間連携教育(Interprofessional Education, 以下IPE)、つまり専門職間のチームワーク技法を学ぶ授業をカリキュラムとして取り入れる大学が増加してきました。

IPEでは、これまで地域に学生のチームが出向いて、事例についてチーム討議することが主体でした。しかし、このような「地域型」ではチームを編成して出向いても、専門職を目指す学生すべてに完全に適合した事例が地域から提供されるとは限りません。そこでこうした実態を踏まえ、本学ではかねてより「総合ゼミ」という多職種間の連携を学ぶ演習科目において、「地域型」に加え、仮想患者・実写ビデオやアニメ映像などを使用した事例教材(以下、モジュール)を中心とした事例を学生に提供してまいりました。そして今回の採択された事業によって、連携大学などとの連携でより多くのモジュールを集積し、またイギリスで開発されたバーチャル事例を参考に、標準的なモジュールを共同開発しデータベースとして蓄積していくなど、さらに質・量ともに発展させ全国的に展開していくことになりました。また、IPEを指導する教員であるファシリテーターの養成や、遠隔地の大学もネットワークを利用し応募できる連携教育運営システムの構築などの基盤整備についても、積極的に取り組んでいく予定です。

IPEは「ともに学びながら、お互いについて学ぶ」ことを目的としています。専門知識を有しながら他の専門職について理解し、チームとして問題解決できる能力を習得しない限り、多様化、深刻化している諸問題に対処していくことはできません。本学では専門職間連携教育用カリキュラムの共同開発と実践によって、QOL向上を目指す支援策を提案できる、将来の連携協働を目指した学生を今後も育成していきたいと思っております。



| 事業概要 |

□ 連携取組の内容

01 IPE実施要件に関する 開発・構築・改訂	<ul style="list-style-type: none">■ IPEカリキュラム開発・改訂■ IPE標準モジュール(教材)開発・改訂■ IPEファシリテーター研修開発・改訂■ 学習・研修効果評価法開発■ 大学間と保健・医療・福祉機関の連携■ 学習・研修展開基盤のICT構築
02 連携大学における IPE本格実施	<ul style="list-style-type: none">■ チーム演習中心のIPE実施■ IPEカリキュラム実施■ IPE標準モジュール(教材)利用■ IPEファシリテーター研修実施■ 学習・研修効果評価法改訂■ 学習・研修展開基盤のICT利用
03 IPEコンソ大学へ IPEカリキュラム公開	<ul style="list-style-type: none">■ IPE関連コンソーシアム大学に向けた公開■ IPEカリキュラム公開■ IPE標準モジュール(教材)公開■ IPEファシリテーター研修公開■ 学習・研修効果評価法標準化■ 学習・研修展開基盤のICT供用
04 IPE関連学会への提言、 認証制度等検討	<ul style="list-style-type: none">■ 日本保健医療福祉連携教育学会へ提言■ IPE標準コア・カリキュラムの普及■ IPEファシリテーター認証制度■ IPE演習修了者の認証制度など

□ 期待される効果

- 専門職間連携の課題解決の実践的力を持つ人材育成
- IPEカリキュラム、教材、ファシリテーター研修を社会に還元
- ICTによる広域的なIPE連携、教育、研修の確立と普及
- サービス利用者のQOL向上による社会貢献など

| H21年度活動実績 |

2009/09/17

戦略連携事業キックオフ ミーティング 開催
(会場:新潟医療福祉大学)



2009/09/18

St George's, University of London
Fiona Ross教授による講演を実施
(会場:新潟医療福祉大学)
テーマ:「英国専門職間連携教育の実情」



2009/10/11

第2回保健医療福祉連携教育学会学術集会に参加 (会場:千葉大学)
テーマ:「プロフェッショナリズムの育成とIPE」
学会長:千葉大学 酒井郁子教授

2009/11/18~25

IPEに関する英国視察研修を実施
訪問先: St George's,
University of London/
University of East Anglia



2009/12/02~03

大学間連携に関する神戸視察研修を実施
訪問先: 大学コンソーシアムひょうご神戸、WHO神戸

2010/02/01, 03, 04

ワークショップ開催(東京・新潟)
(会場:2/1 首都大学東京 秋葉原キャンパス、2/3, 4 新潟医療福祉大学)

2010/03/02~10

IPEに関するカナダ視察研修を実施
訪問先: University of Toronto/McMaster University

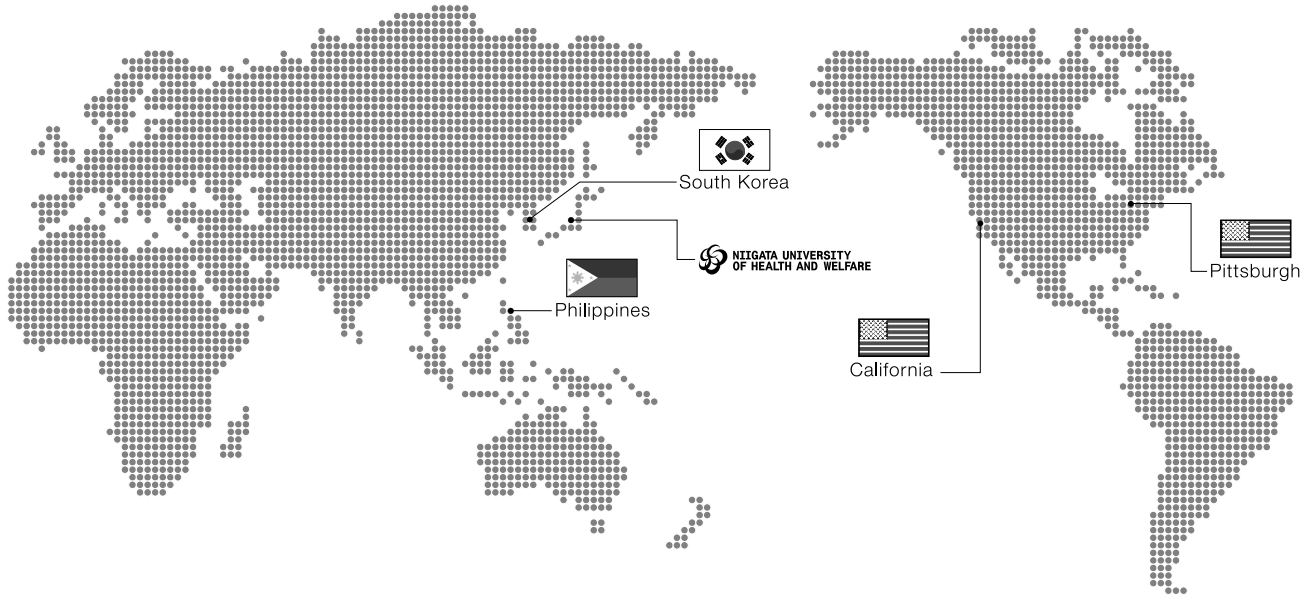
2010/03/11

5大学合同会議及び各専門委員会の開催 (会場:事業創造大学院大学東京キャンパス内)



世界から学ぶ

本学では、海外での経験を通じて幅広い知識を身につけることを目的とし、毎年様々な海外研修を実施しています。今年度の春休みには、カリフォルニア研修(理学療法学科)、韓国研修(全学科)、ピッツバーグ研修(義肢装具自立支援学科)、フィリピン研修(理学療法学科)の4つの研修が企画され、計12名の学生が参加しました。これら研修のうち、カリフォルニア研修・韓国研修・ピッツバーグ研修については参加学生からの報告、フィリピン研修については、引率教員による事前指導の様子などをお伝えします。



Report 01

アメリカ カリフォルニア研修

理学療法学科3年生 浦野陽香 尾池紗也香 小嶋遙香 高田莉奈

私達は2月16～27日の12日間サンディエゴ、サクラメント、サンフランシスコに理学療法学科米国短期研修に行ってきました。サンディエゴではシーワールドやダウントウンを観光しました。

また、アメリカの理学療法士の学会にも参加しました。学会は18日～20日まで開催されており、多くの理学療法士や学生が参加していました。全部で18のセッションがあり、例えば理学療法士の資質やACL疾患の分野などテーマに沿った研究発表がされていました。初めての学会だったので全てが新鮮で、日本では経験できない貴重な体験でした。また、University of St. Augustineという現地の大学で、理学療法学科の授業を見学させていただきました。授業では、学生が患者役とセラピスト役になり、下肢に疾患があると想定して一連の評価をしており、より臨床に近く、実践力とモチベーションを高める授業構成となっていました。サクラメントでは、Methodist Hospitalという病院を訪問し、徒手療法のセミナーと理学療法士の1日の仕事内容をマンツーマンで見学しました。アメリカでは一人の患者さんにあてる時間が45



～60分と長いので、コミュニケーションをとりながら充実した治療を行っていました。また、普段経験できない人工膝関節の手術も見学しました。そしてサンフランシスコでは、理学療法士が開業しているクリニックを二人ずつで見学しました。そこで日本とアメリカの車いすやトランスファーボードなどの用具の違いが分かりました。他には観光として、チャイナタウン、フィッシャーマンズワーフ、ゴールドゲートブリッジへ行き、夜はミュージカルを見ました。この海外研修で、病院やクリニック、大学を見学し、日本とアメリカの医療制度や他部門との連携の違いを知りました。他にもアメリカと日本の理学療法士が、患者さんに行うことのできる処置の違いや、医療行為に対するPTの関わり方の違いを知りました。また、期間中にアメリカで理学療法士として働いている4人の日本人の方と会食をする機会があり、アメリカの大学生活や、海外で働こうと思った理由など貴重なお話を聞きました。アメリカの学生の授業に対する積極性や、病院やクリニックで働く理学療法士が、身につけた知識や技術をすぐ患者さんの治療に活かしていく姿勢をみて、今までの私達の考え方の未熟さを痛感したので、今回の経験を励みにこれからの大学生活を有意義に過ごしていきたいと思っています。



Report 02

韓国研修

言語聴覚学科2年生 片桐 梢

私は2010年2月16日から27日の12日間、韓国での語学研修に参加しました。韓国では忠南大学校で韓国語および韓国の文化を学んできました。授業では韓国語の文法を中心に学び、放課後には伝統舞踊や料理などの伝統文化を体験しました。また、週末にはホームステイにも参加させていただき、韓国一般の家庭にお世話になりました。そこでは家族の皆さんに大変親切にいただき、韓国の文化をより体感することができました。辛いものが苦手な私は、水で唐辛子を洗い流して食べたりもしていましたが、日本に帰国してキムチが恋しくなり、キムチを食べ、



韓国を思い出していました。韓国での12日間はとてもあっという間でした。しかし、この期間で私はたくさんのお話を体験し学ぶことができました。韓国語はもちろん、現地の学生との交流や一緒に行った新潟大学や敬和学園大学、新潟国際情報大学の

学生との交流の中で、協力したくさんの経験をすることができました。韓国の学生はとても勉強熱心で私ほとても驚きました。わからない単語があればさかさず辞書を引く、それでもわからない時は私や他の学生に聞くなど、一緒にいてもすごく熟意を感じることができました。それと同時に「私ももっと頑張らなくちゃ」と何度も感じさせられました。現地の学生に「勉強は楽しいか」と聞くと誰もが「自分のやりたい勉強をしているからすごく楽しいよ」と答えてくれました。そういう彼らの姿ほとても輝いていた気がします。そんな彼らを見て、私は好きなことを学ぶことができるということの素晴らしさを改めて感じることができました。私自身も今回、韓国で大好きな韓国について学ぶことができても楽しかったです。これからも今回お世話になった学生さんたちとの絆を深めつつ韓国語の勉強に励んでいこうと思います。また、自分のやると決めた大学での勉強も今まで以上に真剣に取り組んでいきたいと感じました。



Report 03

アメリカ ピッツバーグ研修

義肢装具自立支援学科2年生 野村 侑平



私は3月7日～3月14日の7日間、アメリカピッツバーグへの研修に参加しました。初日は移動日だったのですが、2日目より研修が始まり、初めにHERL(Human Engineering Research Laboratories:人間工学研究所)とCarnegie Mellon大学の方へ伺いました。特にHERLでは休みにも関わらず多くの方に集まっていたので、英語で自己紹介をし、ピザやコーラなどで昼食もご一緒させていただきました。HERLでは車いすや、最新のロボットアームの研究をしており、よくわからない部分もあったのですが、最先端の技術を研究している方々との一日は大変有意義なものでした。次の日はPittsburgh大学とUnion義肢製作所に伺いました。Pittsburgh大学大学院義肢装具コースは、この分野において世界トップの教育研究機関であり、大学の方々にその優

れた環境や施設設備に関する説明をしていただきました。午後からはUnion義肢製作所のRellich社長に車で送っていただき、製作所に向かいました。製作所までの小1時間、車内ではRellich社長と二人きりだったので、最初は緊張しましたが、お互いの趣味が音楽ということがわかったので、音楽の話で盛り上がり、楽しくコミュニケーションをとることができました。製作所では到着してすぐにラミネーションをさせていただきます。授業で行った手法とずいぶん異なりましたが、授業の知識で十分に対応できました。技術的なことに関するお話はとても興味を持つことができ、色々聞くこともできてよかったです。研修最終日はPittsburgh大学の福祉機器の適合センターで車いすについてレクチャーを受け、午後には、現在世界各国で保健・医療・福祉の連携教育に使用されている、仮想の患者を作るインターネットシステム(Virtual Patient Simulation)を開発した、研究室に伺い、説明を聞きました。ピッツバーグでの研修は、現地の方は勿論、引率の大鍋先生、そして英語の戸出先生にも大変お世話になり、おかげでとても濃い充実した時間を過ごすことができました。将来はこの貴重な経験を活かし、視野の広い義肢装具士を目指したいと思います。



Report 04

フィリピン研修

理学療法学科准教授 古西 勇



理学療法学科では、前回(平成21年2月)に続き、今年度もフィリピンの大学学生との交流と地域の障害者支援の取組みに関する研修を行います。今回は、本学国際交流事業として招へいして来ていただいたフィリピンの大学教員(理学療法士)の2名の先生方に、研修参加予定の学生たちは事前にゼミ形式での英語でのコミュニケーションと発表の特訓を受けてから研修に臨みます。期間は3月17日(水)に新潟を立ち、成田空港の近くで一泊して、18日(木)にマニラ国際空港に向け出発します。9:30に出発して1:30(現地時間)頃に到着予定で、時差が1時間あるので、実質5時間です。今回は、学生6名・教員2名の参加者で、学生から義足の必要な人へのリハビリテーションや子どもの医療施設の見学の希望があり、フィリピンの先生方に見学の許可申請の手続きを現地と連絡を取りながら行っていただき、既に見学の許可もいただいています。フィリピンの2名の先生方の大学にも、前回に引き続き、見学に訪れる

予定です。特に今回は、学生一人ひとりの学内の案内をフィリピンの学生さん一人ずつでお願いしています。団体内で案内されても、結局お互いに日本語で話したり、英語の話せる人に通訳してもらったり、他人頼みとなりやすいので、今回は一人ひとりでコミュニケーションを取ってもらいフィリピンの学生さんたちと仲良くなってもらうことにしました。地方の大学では、やはりフィリピンの学生さんをお願いして、学生一人ひとりが別の家にホームステイさせてもらうことになっています。フィリピンの人たちの家庭での暮らしぶりを経験できるという、大変貴重な機会となると思います。もう一つ、新しい企画として、海岸沿いの町に一泊して、海水浴などを楽しむ時間も設けました。日本(新潟)とフィリピンとの気温差は、日本が冬のとき(新潟の最低気温が0℃前後のとき)はあちらが35℃前後です。

フィリピンは世界でも有数の群島国家で、海もきれいです。参加する学生の皆さんには、英語やフィリピンの言葉(タガログ語)でのコミュニケーションが上手になると同時に、たくさんの友だちを作って帰ってきてほしいと願います。


(写真は事前研修の様子です)



新入生への アドバイス

| 学科長 |

Advice **01**




自由と創造

理学療法学科
学科長
大西 秀明

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これからの4年間は、皆さんの人生のなかで最も充実した時期になると思います。大学は義務教育ではありませんので、皆さんは自らの意志で大学進学の道を選択されたわけです。自由な発想のもと勉学を含めて全てのことに対して積極的に行動を起こして下さい。皆さんの心がけ次第でこれからの人生が大きく変わってきます。

Advice **02**




大学生活、有意義な経験を!

作業療法学科
学科長
大山 峰生

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。作業療法学科教員一同、皆さんが10期生としてご入学されましたこと、心よりお祝い申し上げます。大学生活は勉学の他、クラブ活動などの課外活動もあります。その中で多くの友人を得て人格を形成し、将来の作業療法士に必要な様々な経験を積まれることを我々は期待しております。健康に留意して、4月からの新生活を有意義にお過ごしください。

Advice **03**




「生徒」から「学生」へ

言語聴覚学科
学科長
糟谷 政代

将来ことばやコミュニケーションの問題を抱えた人たちを支援する医療専門職として活躍している自分——その夢を実現させるために胸を躍らせていることでしょう。さて、諸君は今まで「生徒」でしたが、これからは「学生」です。学校などで教育を受ける側であった「生徒」と違い、大学では自ら進んで学業を修める「学生」が求められます。学問に対する受動から能動へ——大学が求めるものです。

Advice **04**



卒業証書をもつ自分をイメージ

義肢装具自立支援学科
学科長
江原 義弘

入学おめでとう。皆さんはまだ高校生の気分が抜けられないかも知れません。でも学内の上級生をみてください。大人のように見えるではありません。しっかり学習を積み重ねてきたから大人になるのです。皆さんもきつとなれます。具体的な目標を立て、4年後に卒業証書をもって社会に出て行く自分をイメージして、毎日を有効に過ごしてください。

Advice **05**



求められる管理栄養士とは

健康栄養学科
学科長
斎藤 トシ子

高度な専門知識と技術、幅広い教養、社会人としての基本マナー、諸課題の解決策を見出すコーディネート力、コミュニケーション力、思考・判断のプロセスや結果を論理的に説明するプレゼンテーション力、協調性と倫理観、自主的・継続的な行動力を兼ね備えた管理栄養士養成に向け、大学では沢山のチャンスを提供します。求められる管理栄養士になれるかどうかはあなた自身の行動にかかっています!

Advice **06**



心と身体を鍛えましょう

健康スポーツ学科
学科長
丸山 敦夫

ご入学、おめでとうございます。皆さんにお願いしたいことは、健康やスポーツに関するあらゆることに興味・関心をもって、健康科学やスポーツ科学の専門家としての基礎を養ってくださいということです。さらに、自らのからだを鍛え、大好きなスポーツの競技力を追及する探究心を持ってください。ぜひ、スポーツを通じてたくましい心と身体を持つ社会人になりましょう。

Advice **07**




考える力

看護学科
学科長
塚本 康子

あらゆる看護の場面で判断力は必要であり、しかも正しい判断が求められます。判断する為には考える力が必要です。看護学を学んでいく基礎として、考える力を養って下さい。しかし、考える力は一朝一夕ではつきません。本を読解したり、人の話を関心を持って聞いたり、疑問を色々な方法を駆使して解消したり、日常の色々な場面で学んでください。そして私たちと大いにディスカッションしましょう。

Advice **08**




新たな福祉社会の担い手を目指す

社会福祉学科
学科長
伊東 正裕

社会福祉学科は、この9年間で「国家試験に強い」「就職に強い」という全国的な評価を受けています。国家試験の合格率は全国上位に位置し、卒業生は新潟市等の自治体をはじめ総合病院等の医療機関、地域包括支援センター等の相談機関など多様な分野で活躍しています。新たな福祉社会の形成に向けて求められる社会的役割を常に意識し、質の高いソーシャルワーク専門職を目指してください。

Advice **09**



少年易老学難成、……

医療情報管理学科
学部長
福島 正巳

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます!医療情報管理学科の第一期生として教員一同、皆さんを心から歓迎します。これからの4年間は長いようですが、あっという間に過ぎていきます!気がついたら4年生、なんて事にならないよう、貪欲に学生生活を送って下さい。勉学は言うまでもありませんが、クラブ活動・地域活動・社会勉強(?)等。真剣に取り組めば、無意味な事は一つありません!

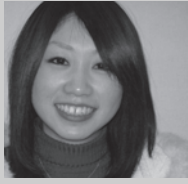


学部・学科長&学生からのメッセージをお届けします。

| 学生 |

Advice

01



やる時はやる! 遊ぶ時は遊ぶ!

理学療法学科 本間 美穂

大学生活を考えると楽しみと不安があると思いますが、友達が出来ることで不安は楽しさに変わります。1年生では他学科の学生と学ぶ授業が多くあるので、多くの友達をつくって下さい。また、大学生は自己責任で行動すると自覚し、「やる時はやる!遊ぶ時は遊ぶ!」の精神で頑張ってください。理学療法学科では体の構造や機能、運動時の体の動き、様々な疾病など幅広く学びます。1年生で習う基礎は今後の土台なので、自分なりの勉強法を見つけて下さい。

Advice

02



1年生の基礎学習からしっかりと

作業療法学科 佐藤 由佳

これまでの勉強を振り返ると、基礎学習はとても大切であると感じます。1年生の時は日々の勉強をこなすことで精一杯で、それがどれだけ大切かは分からないかも知れませんが、全ての勉強はつながっていると分かる時が来ると思うので、ぜひ頑張ってください。周りには同じ夢に向かって頑張っている仲間がいます。その仲間と支え合いながら、入学する前にもっていた自分の夢に対する思いを忘れずに大学生活を楽しんでください。

Advice

03



コミュニケーション能力を磨く!

言語聴覚学科 渡辺 静加

私は言語聴覚士を目指していますが、将来、就職した時には、患者さんや同じ職場の様々な職種の人たちと関わります。そのため、医療の現場では言語聴覚士としての専門的な知識だけでなく、周囲とのコミュニケーションをとる能力が必要とされます。大学生活では、勉強以外にも部活動や課外活動に参加することによって人と人との関わり方を学ぶことも大切です。新入生のみなさんも積極的に色々な場面に関わるよう頑張ってください。

Advice

04



新入生へのアドバイス

義肢装具自立支援学科 秋場 周

ご入学おめでとうございます。大学は高校と違い自由だと感じる人が多いでしょう。しかし自由だということは「自分の行動に責任を持たなくてはいけない」ということです。そのことを踏まえ、これから始まる生活を楽しむものにしていきましょう。最後に、皆さんが今日の場にいるということは、多くの人の支えがあったということを忘れないでください。そしてその感謝の気持ちを大切にしてください。

Advice

05



ボランティア活動を通じて「食」の大切さを伝えています

健康栄養学科 長谷川 一幾

健康栄養学科では、小学校に出向き「食」に関するボランティア活動を行っています。子供達に調理実習を通して「料理の楽しさ」を感じてもらい、文化祭ではお菓子や野菜を使って「食の重要性や役割」を話すことができました。このようなボランティア活動を通じて、自分が「食育」に少しでも関わって嬉しかったです。ボランティア活動は人のためだけではなく、その経験は大学の勉強と同じくらい自分のためにもなります。

Advice

06



「両立」を心がけて充実した毎日を

健康スポーツ学科 小野 亜里沙

私は水泳部に所属し、日本代表選手を育成した経験を持つ監督やコーチのもとで毎日厳しい練習に励んできました。水泳部は、全員が一つのチームとなり「日本一」を目指しています。とても良い環境・施設で練習ができるだけでなく、本学科では中・高等学校教諭一種免許(保健体育)や健康運動指導士などの資格取得が可能なので、勉強と部活を両立させながら頑張っている学生がたくさんいます。スポーツクラブなどのアルバイトをして、運動指導の経験を積む人もいます。4年間は長いようであっという間に過ぎてしまいます。皆さんも自分の将来の目標に向かって大切に時間を過ごし、個性的なキャンパスライフを送ってください。

Advice

07



試験勉強は仲間と頑張っています

看護学科 赤塚 友郁

毎日楽しく充実した生活を送っています。試験前には友人の家に泊まりがけで勉強したり、先生から得た情報をメールを活用し仲間同士で共有したりして、試験を頑張っています。大学ではグループワークも多く、同じ目標に向かって勉強する仲間と頑張っていけることは素敵です。皆さんにとって、レポートや実習など慣れない事もあると思いますが、たくさん勉強したり遊んだりして、仲間と一緒にキャンパスライフを楽しんでください!!

Advice

08



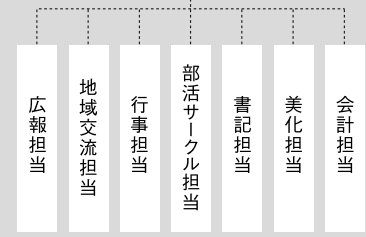
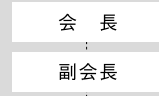
就職活動で学んだこと

社会福祉学科 小林 美香

4年生になると、国家試験の勉強と同時に就職活動をしなければなりません。私は新潟県外での就職を考えていましたが、大学に来る求人は、新潟県内のものが多いため、就職説明会を探して参加するなどの対策を行いました。その結果、説明会等の際には、「自分はこの地で絶対働きたいんだ!」という気持ちを持ち、その気持ちをしっかり相手に伝えることが大切であるということが分かりました。皆さんも4年後の自分をイメージしながら、頑張ってください。

大学と地域の活性化を目指す！学友会紹介

こんにちは!学友会です!!このページでは、学友会(がくゆうかい)という組織と、その活動内容についてご紹介致します。学友会とは、中学や高校でいう生徒会のような組織です。私たちは、文化活動やスポーツ活動並びに地域活動を通じて、学生同士の親睦、地域との交流を図り、学生のみなさんがよりよい学生生活を送れるように日々活動しています。学友会のメンバーは、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、義士装具自立支援学科、健康栄養学科、看護学科、健康スポーツ学科、社会福祉学科の全学科の各学年で2~3人が集まり構成されています。特に今年から医療情報管理学科が新設されたので、新1年生の学友会を募集中です★活動場所は主に、第3厚生棟1階の1番奥の部屋(1104)です。学友会の主な活動は、伍桃祭(学園祭)、スポーツ大会などの大学行事の企画運営、部活動の支援、学内の美化活動などです。組織というと堅いイメージを持ってしまいかもしれませんが、そんなことはありません。学友会は学年や学科を越えてとても仲が良く、楽しく、そしてそれぞれが自分の仕事に責任を持って頑張っています!!!学友会はこれからも様々な活動を通じて、大学と地域の活性化を目指していきたく思いますので、今後ともよろしくお願ひします。



組織図 |

MEMBER MESSAGE

みなさん、こんにちは!いつも学友会の活動に協力して頂いて、ありがとうございます。学友会は全学科で構成されていることもあり、他学科の人とも仲良くなれます。もちろん学生だけではなく行事を通して事務局・教職員や企業の人、地域の方々との関わりもあります。つらいこともありますが、とても楽しい大学生活が送れますよ☆



会長
社会福祉学科3年
桐山 渉



副会長
理学療法学科2年
大井 ゆうき

学友会の1番大きな仕事といえば、学園祭の企画・運営です。簡単とは言えませんが、一致団結して何かをやり遂げた後の達成感は素晴らしいものです!みんな仲が良く、笑いのたえない空気の中で活動しています。こんな楽しくてやりがいのある学友会に興味のある方、是非一緒にたくさん思い出を作りましょう☆



広報担当
健康スポーツ学科2年
小野 由子

学友会ではただ学校生活を送るだけでは経験できないことを経験することができますよ!学科の枠を越えて仲間もできます☆充実した学生生活を送りたい新入生の皆さん、学友会で一緒に活動しませんか?

YEAR SCHEDULE

主な行事と学友会の動き

平成22年

- 4 ●リーダー研修会
●新入生オリエンテーション
- 5 ●学友会総会
●美化キャンペーン
- 7 ●夏季スポーツ大会
- 9 ●美化キャンペーン
- 10 ●伍桃祭
●美化キャンペーン
●学友会総会(中間決算)
- 11 ●秋季スポーツ大会
- 12 ●美化キャンペーン



平成23年

- 1 ●美化キャンペーン
●学友会総会

部活 |

- | | | |
|-------------|-----------------|--------------|
| 男女バレーボール部 | 卓球部 | 茶道部 |
| 男女バスケットボール部 | バドミントン部 | VICON部 |
| サッカー部 | 弓道部 | 軽音楽部 |
| テニス部 | 準硬式野球部 | 園芸部 |
| 軟式野球部 | スキー部 | 写真部 |
| 陸上競技部 | 剣道部 | 手話部 |
| ハンドボール部 | ボランティア[レクア・コム部] | 学生サークル[Kids] |
| ソフトボール部 | 和太鼓部[颯] | 学生ボランティアセンター |
| フットサル部 | 吹奏楽部 | |

サークル |

- | | |
|--------------|-------------|
| ダンスサークル | トレーナーズクリニック |
| ソフトボールサークル | 英語club |
| バスケットボールサークル | トレーナーサークル |
| スノーボードサークル | バレーサークル |
| 男女混合サッカーサークル | etc.... |
| バスケットボールサークル | |

学友会メンバー大募集!!

お問い合わせはこちらまで → gakuyuu@nuhw.ac.jp

フレッシュな1年生を大募集しています!ちょっとでも興味がある人は第3厚生棟1階にある学友会室(1104)をノックしてね!

2011年4月 医療技術学部に臨床技術学科を新設計画中!!

NEWS 01

日本初! 臨床工学技士(国)と臨床検査技師(国)のダブルライセンス同時取得を目指す!
従来の資格の垣根を超え、医師とともにより幅広い業務に対応する「臨床技術者」を育成!

| 教育の特色 |

臨床技術学科では、日本で唯一、卒業時に臨床工学技士と臨床検査技師の2つの国家資格受験資格を同時取得するカリキュラムを配置し、学生全員でダブルライセンスの取得を目指します。従来のダブルライセンス取得方法とは異なり、4年間の教育の中で“同時取得”を可能としたことで、各専門職の高度な知識・技術を段階的に学ぶことができるだけでなく、それぞれの専門性の違いや連携について理解し、2つの専門業務を結びつける手法を学ぶことができます。また、既存の4学部9学科と、学科の垣根を越えて学ぶ「連携教育」を早期から実践し、今求められる「チーム医療」の一員として医師をサポートしながら、より幅広い業務に対応できる人材の育成を目指します。

| 設置の背景 |

科学技術の発達により、ますます高度化が進む医療現場では、一方で“医師不足”や“病院経営悪化”など、さまざまな課題を抱えています。こうした状況のなかで、質の高い医療サービスを提供するためには、医師をサポートする高い専門性を持ったスペシャリストの存在はもちろん、より効率的に医療を提供することのできる人材が求められています。

臨床技術学科では、特に、生命維持や心臓手術、高度先端医療などの臨床現場で医師と密接にかかわり、患者様の治療に貢献する2つの国家資格を同時取得し、従来の資格の垣根を超え、医師をサポートしながらより幅広い業務に対応できる人材＝「臨床技術者」の育成を目指しています。

■ 目標とする資格

- 臨床工学技士(国) ● 臨床検査技師(国)

■ 卒業後の進路

大学病院・総合病院・専門病院など医療機関／医療機器メーカー／検査・検診・血液センター／医療工学関連企業／食品・製薬関連企業／保健所・保健センター／都道府県・市町村職員(医療職)／教育・研究機関／大学院進学など



2月19日(金)、本学キャンパスにて「2011学内企業就職説明会」が実施されました。

NEWS 02

この就職説明会は、一般企業へ就職を検討している本学3年生の就職支援の一環として、本学就職センターが毎年実施しているもので、今回で3回目の実施となります。

昨今の世界経済不況の中、参加企業の減少も懸念しておりましたが、昨年を上回る30社の採用担当者にお越し頂き、本学学生も3年生約150名が参加するなど、大変盛大に開催されました。

当日は最初に全体会を行い、高橋榮明学長、藤巻健一就職センター長による挨拶の後、各企業からPRを行って頂きました。

全体会終了後、別会場で行われた個別ガイダンスでは、各企業の採用担当者が事業内容や採用スケジュールなどを説明し、参加した学生は時折メモを取りながら熱心に聞いておりました。

人事担当者からは「こちらの意図を良く理解できる優秀な学生が多かった」「大学内の説明会でこれだけ多くの学生が説明を聞きに来てくれて、ありがたく思った。来年度も是非、実施して欲しい」「質問や

意見を出してくる学生も多く、意欲を感じた」といった意見を頂くことができました。

また、参加した学生からは「様々な職種の話しを聞けて参考になり、求められていることが分かったのでも意義だった」「大学内での説明会ということで、リラックスして臨むことができた」「知らなかった企業でとても良いと思える企業があり良かった」などの意見が聞かれるなど、大変有意義な説明会になったようです。



春のオープンキャンパスを開催しました!

NEWS 03

3月27日(土)、本学にて「春のオープンキャンパス」を実施しました。第1部プログラムでは、(株)さんぽう:看護医療進学研究会のぬま口せいいち先生をお招きし、保健・医療・福祉分野の資格や仕事内容、養成校の最新情報などわかりやすく説明していただきました。

また、第2部プログラムでは、大学説明会&新設学科説明会や学科別説明会、全10学科による体験プログラムなど多様なプログラムを実施しました。特に、体験プログラムでは、全10学科が特設会場に集まり、複数の学科のプログラムが自由に体験できるとあって大盛況でした。本学では、本年度もオープンキャンパスにおいて様々な企画を

多数用意する予定です。是非、ご参加いただき新潟医療福祉大学をおもいっきり体感してみてください!



受験生のみなさんへ

イベント案内

**オープン
キャンパス** | 第1回/7月17日(土)
第2回/8月 7日(土)
第3回/9月 4日(土)

大学説明や入試説明はもちろん、全10学科による30種類以上の体験プログラムを用意し、皆さんの「知りたい」全てに応えます!



**キャンパス
ツアー** | 第1回/4月24日(土)
第2回/6月19日(土)

入試対策講座など開催ごとに異なるプログラムを用意し、みなさんが『今』知りたい情報を提供します!



**伍桃祭
(大学祭)** | 1日目/10月 9日(土)※
2日目/10月10日(日)
※キャンパスツアーと同時開催

ゲストを招いてのライブなど様々なイベントを実施します!是非キャンパスライフの楽しさを体感してください!



メールマガジン案内

Eメールアドレスが無くても大丈夫!!

新潟医療福祉大学では月1度、本学の様々な情報をメールマガジン「QOLサポーター新潟(NUHW)」として皆さんにお届けしています。オープンキャンパスやキャンパスツアーなどのイベント情報・入試情報といった最新情報や、教員・学生からのメッセージ、先輩の合格体験談など進路決定や入試対策の参考になる特集をはじめ、様々な内容を予定しています。Eメールアドレスをお持ちでなくても、インターネットに接続できるパソコンがあれば、どなたでもご覧いただけます。ぜひ本学ホームページからご登録ください。

ホームページ案内

新潟医療福祉大学の情報が満載です。新着情報やイベント情報などを随時更新していきます。ぜひご覧ください。資料請求・イベント申込み、メールマガジン登録等もこちらからどうぞ。

URL <http://www.nuhw.ac.jp/>

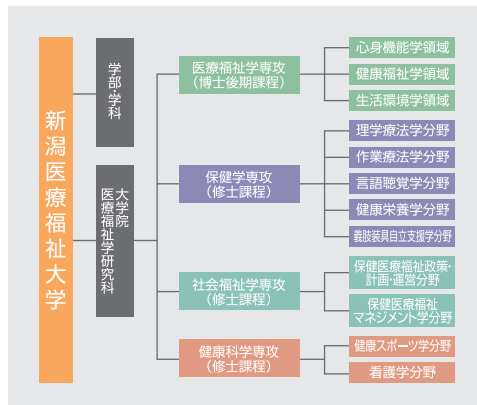
携帯 <http://www.nuhw.jp/m/>
(携帯電話からはコチラ)



大学院

大学院のご紹介

わが国では、大学・大学院における医療・保健・福祉分野の研究・教育組織はまだ極めて少ないのが現状です。本学ではこういった現状を受け、2005年度に修士課程、2007年度に博士後期課程を設け、先進欧米諸国の水準を目標に、教育・研究体制の整備を進め、この分野の教育研究を推進しています。院生の中には、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・看護師・健康運動指導士・社会福祉士等々、保健・医療・福祉分野において現役で活躍している方々が多数学生として在籍しており、修了生の中にも大学教員として就職された方、病院・施設に戻り現場の第一線で活躍している方等がいます。本大学院では今後も新しい時代に即した高度専門職業人と優れた教育者・研究者を育成し、医療・保健・福祉に対する社会的ニーズに応えていくことを目的とします。



新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>
【入試事務室】TEL025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポート)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様にも本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

